

〔本県の大学進学状況と課題〕

- 国公立大学への合格者の割合は全国トップクラスを継続
- 難関大学の合格者数・割合は減少
難関大学を志望する生徒の割合も減少
〔平成20年度：10.4% ⇒ 平成28年度：8.6%〕
- ※ 高校生の学力は平均して高いが、より高い目標を実現するための、
進学指導・教科指導の改善が必要

	平成20年3月	平成24年3月	平成28年3月	平成29年3月
国公立大学合格者数 (卒業者に占める割合)	1,685名 (27.5%)	1,538名 (27.0%)	1,383名 (26.0%)	1,432名 (26.6%)
うち難関大学合格者数 (卒業者に占める割合)	225名 (3.67%)	175名 (3.07%)	143名 (2.69%)	155名 (2.88%)

※ 難関大学は北海道大、東北大、東大、東工大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大の10大学を集計

平成28年度の実施内容

1 新たに県独自の到達度確認テストを作成・実施

- 1年生（1月）、2年生（7月、1月）、3年生（8月）
1、2年生はセンター試験の過去問題、3年生は全国の国立大学の二次試験等からテストを作成・実施

〔生徒〕

- ・ 早期に大学入試問題に触れ、課題の発見と意識の向上に活用

〔教員〕

- ・ 80名が問題作成に参加して指導力を向上
- ・ 分析結果をもとに各学校において授業を改善

2 学校での志望大学別指導や個別指導を強化

- 数学・理科の進度を早めて入試問題の演習量を増加
- 昼休みや授業後の自習室等における個別指導を強化
- 学校において大学別対策講座の開始時期を早め、夏季休業中から実施

3 既卒生の学習支援体制を整備

- 既卒生を対象に学習会、進学相談等の支援を開始
・ 利用頻度の高い38名のうち24名が大阪大学など国公立大学に合格

平成29年度における改善・強化

1 到達度確認テストをもとに、授業改善を促進し、高校生全体の学力を向上

- ・ 問題作成教員を80人から100人に増員し、若手・中堅教員を育成
- ・ 分析結果をもとに、5教科の指導主事が学校を訪問し、指導方法を助言して授業改善
- ・ 国語に現代文を入れるなど試験問題の内容を改善
- ・ 解答解説を冊子化し、生徒が繰り返し復習できるように改善

2 より上位の大学を目指す生徒の育成

○ 目標や意欲を高める集会、面談指導を強化

- ・ 校長をトップに進路指導部長や学年主任が担任をサポートし、面談体制を強化
- ・ 生徒に志望を高く持たせる集会を定期的実施

○ 生徒の志望や学力に応じた指導を早期から実施

- ・ 1年生から大学入試問題を活用した個別添削指導を開始
- ・ 2年生から大学別特別対策講座を開始

○ 生徒と保護者を対象にした進学研修会やセミナーを県全体で開催

- ・ 1年生と保護者を対象にした進学研修会を実施
- ・ 長期休業中などにおいて、志望大学別の特別講座・進学セミナーを拡充

3 既卒生に対する進学支援を拡充

- ・ 新たに推薦入試等の小論文指導や生徒同士の交流会を実施